



古墳は土を高く盛って造られた身分の高い人のお墓のことだ。力が大きい人ほど、古墳も大きなものになる。



こ ふん じ だい 古墳時代

300年～700年

時代の概要

大和（現在の奈良県）を中心とした大きな勢力の豪族が国々を統合して、前方後円墳などの古墳を築き、古墳の築造は全国に広がっていきました。

宝塚市域には、古墳時代のはじめから終わりまで、前方後円墳の大型古墳や、円墳の小さな古墳（群集墳）が多く造られています。

市内の主な遺跡

あ くら た かつ か こ ふん な か す じ や ま て ひ が し こ ふん ぐん な か や ま そ う えん こ ふん

安倉高塚古墳・中筋山手東古墳群・中山荘園古墳

安倉高塚古墳【市指定史跡】

武庫川の河岸段丘上に築かれた古墳で、昭和12年（1937年）に道路工事が行われた際に偶然発見されました。

古墳の規模は、墳丘が半壊しており明確ではありませんが、径10数m、高さ約2.5mの円墳と推定されており、内部には河原石を積んだ竪穴式石室があります。

遺物は、中国の呉の年号である「赤烏七年」（244年）の銘が記されている赤烏紀銘神獸鏡などが出土しています。



発見当時の安倉高塚古墳



現在の安倉高塚古墳

どうさかくんメモ

古墳時代のはじめは、大きな権力を持つ人のお墓として巨大な古墳が築かれたけれど、時代の終わり頃には、権力者の家族用に小型の古墳も造られるようになる。小型の古墳の集まりを群集墳という。宝塚市内には群集墳がたくさんある。

